

【短 報】

新品種シロミノヤブヘビイチゴ(バラ科)足羽三山に産す

若 杉 孝 生*

On *Duchesnea indica* f. *albocaput* (ROSACEAE)

Takao Wakasugi

1991年6月13日に福井市の足羽三山の植物調査を行った際、足羽三山の一角でヤブヘビイチゴ *Duchesnea indica* の白実のものを発見した。同属のヘビイチゴ *Duchesnea chrysantha* には非常にまれに白実のものがあり、これは1930年の6月1日に栃木県で牧野富太郎氏によって初めて採集され、1931年に植物研究雑誌第7巻4号に新変種シロミノヘビイチゴとして発表された。筆者は富山大学の鳴橋直弘先生から以前にこの植物をいただいたことがあったので、その存在を知っていたが、ヤブヘビイチゴの白実の存在はまだきいたことがなかった。足羽三山のもののみたとき、多分ヘビイチゴの白実であろうと思われたが、くわしく調べてみるとどうやらヤブヘビイチゴのようである。そこで生植物を鳴橋先生に送り同定をお願いしたところ、形態上からも、また染色体数からもヤブヘビイチゴの白実品であることが判明した。その後先生は再度にわたり現地を調査され、その結果このものをヤブヘビイチゴの新品種シロミノヤブヘビイチゴ *Duchesnea indica* (Andr.) Focke f. *albocaput* Naruhashi と命名された。このことについての正式の報告は現在、「植物地理・分類研究」に投稿中であるとのことである。

非常に珍しいとされるこの新品種シロミノヤブヘビイチゴは、足羽三山の一角、標高およそ40mにあるコナラ (*Quercus serrata*)、クヌギ (*Quercus acutissima*)、カラスザンショウ (*Zanthoxylum ailanthoides*) などの落葉広葉樹の混交林の林縁に数十株の自生が認められる。その林縁に生育するその他の主な植物はつぎのようである。(順不同)

〈中・低木類〉 ヒサカキ (*Eurya japonica*)、コアジサイ (*Hydrangea hirta*)、ゴンズイ (*Euscaphis japonica*)、ニガイチゴ (*Rubus microphyllus*)

〈幼木〉 タニウツギ (*Weigela hortense*)、ウリカエデ (*Acer crataegi-folium*)、クロモジ (*Lindera umbellata*)、エノキ (*Celtis sinensis* var. *japonica*)、ウツギ (*Deutzia crenata*)、シロダモ (*Neolitsea sericea*)、コブシ (*Magnolia praecocissima*)

〈ツル植物〉 ミツバアケビ (*Akebia trifoliata*)、キヅタ (*Hedera rhombea*)、フジ (*Wisteria floribunda*)、ノイバラ (*Rosa multiflora*)、サルトリイバラ (*Smilax china*)

* 福井市中央2-8-27



Duchesnea indica f. *albocaput* シロミノヤブヘビイチゴ

〈草本類〉 ウシハコベ(*Myosoton aquaticum*), タチツボスミレ(*Viola grypoceras*), ヒヨドリバナ(*Eupatorium chinense*), ヒカゲイノコズチ(*Achyranthes bidentata* var. *japonica*), ミツバ(*Cryptotaenia japonica*), セントウソウ(*Chamaele decumbens*), ススキ(*Miscanthus sinensis*), フキ(*Petasites japonicus*), ヨモギ(*Artemisia princeps*), ノコンギク(*Aster ageratoides*), ミゾソバ(*Persicaria thunbergii*), チヂミザサ(*Oplismenus undulatifolius*)

〈羊歯類〉 ミゾシダ(*Leptogramma pozoi* subsp. *mollissima*), ベニシダ(*Dryopteris erythrosora*), シシガシラ(*Struthiopteris nipponica*), リョウメンシダ(*Arachniodes standishii*)

足羽山, 兎越山, 八幡山からなる足羽三山は, 福井市街地の西南部に位置し, 昔から憩いの場として広く市民から親しまれており, 四季折々の自然や史跡をたずねて訪れる人も多い。この身近なところにきわめてまれな新しい品種が見つかったことは, 大きなおどろきであると同時に, 身近な自然でも出来るだけこれ以上破壊せずに, 現状を維持していくことが必要であることを, われわれに教えているといえるだろう。

最後に, 本植物の同定を引きうけられ, また新品種としての正式の発表以前に本稿の作成を快く許された鳴橋先生に厚く御禮申し上げますと共に, 足羽三山の植物調査に協力いただいている林幸子氏に謝意を表す。

参考文献 Tomitarô Makino A Contribution to the Knowledge of the Flora of Nippon 植物研究雑誌 第7巻4号 津村研究所出版部 1931
鳴橋直弘 シロミノヤブヘビイチゴ 植物地理・分類研究 第40巻第2号(印刷中) 植物地理・分類学会 1992